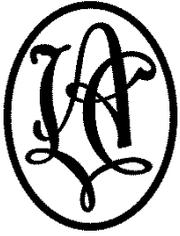


2021 第53号

千葉支部だより



J・A・C



令和3年4月発行

発行元(公社)日本山岳会千葉支部
〒285-0850

佐倉市西ユーカリが丘5-12-4 松田方

発行者 松田 宏也

編集者 小川 和敏

E-Mail cib#jac.or.jp

(表紙の絵) つつじが岡公園

「はるかなる城沼(鯉のぼり)」

水彩画 小菅 一弘

春を迎えて

千葉支部長 松田 宏也

「体力が落ちることよりも感動するところが萎えていくのが怖い」

年末の八ヶ岳は久しぶりにこころ晴れる山行となりました。冬山初心者の若手とパーティを組み、硫黄岳と赤岳を登って来ました。快晴の硫黄岳からは横岳、赤岳、阿弥陀へと稜線が続き、頂上から少し外れたところにある三角点に行くと、赤岳に隠れていた富士山が顔を出してくれました。翌日は雪降るなかを赤岳へ。地蔵の頭を越え頂上に向かうと我々を歓迎するかのようにガスが一瞬晴れ、大展望を味わうことができました。寒風に耐え、鼻水をすすりながら頂上を目指した甲斐があったというものです。

今回も馴染みの赤岳鉱泉に3泊しました。鉱泉もコロナにより100日間の休業を余儀なくされましたが、その後、宿泊人数制限と感染対策の徹底をはかり営業を再開。ここではコロナ禍でも安全・安心して楽しんでもらおうとする取組みがしっかりとされています。安易にとどまらず変化に適応し仕事をすすめる姿は心地よいものです。

我々の登山には山小屋が欠かせません。必死にコロナと立ち向かっている山小屋が存続できるよう、皆さんにもぜひ利用していただき、どのような感染対策を実施しているかを実際に体験していただきたい。「百聞は一見に如かず」です。巷のネット情報に惑わされず、実際に自分の目で確かめることが「with コロナ」時代の登山には必要なことであると思います。



さて、この原稿が読まれる頃には、延長された緊急事態宣言が解除され、徐々に普通の生活に戻りつつあることと思います。完全な撲滅にはまだまだ時間がかかりそうですが、コロナトンネルの出口はもうすぐだと思えます。ワクチン接種までは気を抜かず、健康維持に努められるようお願い致します。

自然界ではスイセン、菜の花、蠟梅、福寿草、紅梅、白梅、そして河津桜、ソメイヨシノへとバトンタッチ。暦通りに花は咲き、私たちの五感に潤いを与えてくれます。ステイホームであっても、散歩の小道に春の足音を感じることができます。感じることを大切にしてください。体力が落ちることよりも感動するところが萎えてしまうのが一番怖いことです。

いまは、四季の移ろいを感じられる山行が気軽にでき、「息苦しいコロナの1年だったね～みんなよく辛抱したね～」と、にぎやかに酒を酌み交わす日がくることを首を長くして待ちたいと思います。

追記) 日本山岳会の120周年記念行事として山岳古道の調査が各支部で開始されます。千葉支部の古道推薦～調査のリーダーを山口副支部長に担当していただくことになりました。今後皆さんにもご協力をいただくこととなります。何卒よろしく願いいたします。

【目次】

- ・山行記録 p 2～5
 乾徳山、三浦アルプス、飯盛山と夏沢鉱泉、花嫁街道・鳥場山（忘年山行）、八ヶ岳（硫黄岳・赤岳）
- ・エッセイ・山 「そんな地図見たことがない」 黒田 正雄 p 6
- ・山岳古道調査プロジェクトについて 山口 文嗣 p 7
- ・山行記録 p 7～11
 富津・白狐峠、高宕山、恐怖のトビ岩、自然学クラブ巡検⑦丹沢、房総の沢①～③
- ・あの日々の山 「ギリシャの山」 篠崎 仁 p 11
- ・こんにちは 野口 徹 p 12
- ・ウォーキングクラブの紹介 杉本 正夫 及び活動報告 p 13
- ・支部山行予定 p 14～15
- ・事務局からのお知らせ p 16

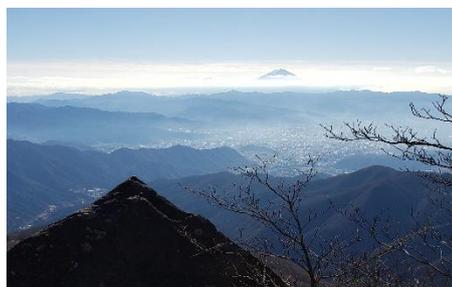
乾徳山

三田 芳江

山行日(天候)：12月4日(快晴)

参加者： CL 小川和敏、SL 今井貴朗、柳川しげよ、三品京子、三田芳江

タイム：大平高原駐車場 9：15→乾徳山登山口 9：40→月見岩 10：50→乾徳山 12：00→高原ヒュッテ 14：00→大平高原駐車場 15：00



小川車、今井車 2 台で談合坂 SA に 8 時に集合し大平高原駐車場に向け出発。移動中に見えた富士山に歓声をあげ、これからの登山に期待が

膨らむ。9 時に大平高原駐車場に到着、準備体操をして歩き始める。大平高原分岐までは約 30 分の林道歩きやショートカット。途中で山の整備をしている男性とすれ違う。大きな月見岩のある扇平で小休止。12 月とは思えない暖かい陽射しの中、月見岩の上に登り、開放感のある心地良い草原の向こうに見える、青空の中に白い雲で裾野を飾る美しい富士山を眺めた。

しばらく岩と木の根の急登を行くと巨岩の割れ目で髭が剃れそうな髭剃り岩、雨乞い岩、胎内岩とユニークな岩が現れ、楽しみながらゆっくりと進む。鎖場のある大きな雷岩を慎重に登ると、次には山頂直下にほぼ垂直な 20m の岩壁「鳳岩」が現れた。「登れるの

かな？」取り付く前の不安は何処へやら～先頭の今井さんをお手本に各人するすると登り切り山頂に到着！ほぼ貸切の山頂で富士山、南アルプス、奥秩父の山々が見渡せる 360 度パノラマの絶景を満喫。小川さんが用意してくれた珈琲を頂いてのんびりと昼食。

下山は往路を月見岩まで戻り分岐から高原ヒュッテへ。きれいな避難小屋で小休止。白樺林の間を抜け大平高原分岐へ、そこからは往路と同じルートで予定到着時間の午後 3 時丁度に大平高原駐車場に戻った。



50歳未満は入会金と年会費2年間分を免除します！

千葉支部への入会には経験・年齢の制限は設けていません。身近な人で登山経験者や登山を始めてみたい方がいましたらご紹介ください。入会希望者向けの「お試し山行」に参加できます。日本山岳会への入会もご相談に乗ります。特に若い方が入会しやすいように、50歳未満の新入会員は入会金 1,000 円と 2 年間の年会費（正会員 1,500 円または会友 3,000 円）を免除します。

三浦アルプス

森川 雅子

山行日(天候) : 12月6日 (曇りのち晴れ)

参加者 : L 松田 宏也、節田 重節、塩塚 生二、湯下 正子、
香高 真奈美、新井 好夫、松本 さゆり、
森川 雅子 以上8名

タイム : 9:00JR 逗子駅集合~9:40 登山口~14:30 乳頭山
16:00JR 田浦駅



三浦アルプス?!とそのネーミングで興味をひかれた山行。アルプスへの入り口は、なんと葉山の瀟洒な教会の脇の杣道でした。少年野球の金属バットの快音、横横を走るバイクのブイブイ音、はたまた汽笛など、低山だけあって生活音は聞こえるのに、周囲はすっかり山深い林の中。左右は深く落ち込んだ細い尾根道を一列で歩く。前日の小雨でしっとりした枯葉は歩きやすく、木々の間からの遠望は、海に江の島、工場地帯と横須賀らしい。両側から覆いかぶさるような木々や細竹をかき分けて進み、14:30 標高 211m の乳頭山頂に到着。こんなにたいへんな山だったっけ?と何度目かのメンバー等から頻りの感想だったように、結構脚に堪えた山行でした。



飯盛山・夏沢鉱泉

宮崎 美智代

山行日(天候) : 12月12日(晴れ) 13日(晴れ時々曇り)

参加者 : CL 松田宏也、SL 三品京子、柳川しげよ、山崎
完治、坂上光恵、古谷清美 湯下正子、羽藤
美代子、宮崎美智代

タイム : 12日 野辺山駅 10:00 集合 ~平沢峠 (獅子岩)
10:35~飯盛山 12:00~
平沢山 12:55~平沢峠 13:45~夏沢鉱泉
16:45

13日 朝食後桜平下駐車場で解散

今回の山行は Xmas イベントと登山の2つが楽しめる贅沢な内容で、9名中7名が女性と、女性に人気の山行となった。野辺山駅に集合し、登山口のある平沢峠に移動し登山開始。風もなく暖かく八ヶ岳や見渡す山々に積雪はなかった。HP に冬山入門コースに最適とあったが今回は準備した軽アイゼンの出番はなかった。とは言えやはり12月、登山道は霜柱が一部溶け靴が泥だらけに。足元に気をつけながらも時折開ける眼下に野辺山電波天文台の大きなパラボラと沢山の



アンテナ、自然と人工物のハーモニーを満喫しながらややきつい上りを登りきった。平沢山の巻道に出ると視界は開け、目指す飯盛山の右奥に富士山の姿が飛び込んで来た。山頂まで尾根道をあと20分程手前の暖かい南斜面で少し早い昼食をとり山頂へ。山頂は遮るものはなく360度の大



展望で見事だった。

復路は往路で巻いた平沢山に向かいここでも眺めを存分に楽しんだ。1時間ほどで平沢峠に下り、靴についた泥を下山途中に拾った枝で念入りに落とし夏沢鉱泉へと向かった。

山小屋では温泉と腕を振った料理を Xmas ソングが流れるなか頂いた。スタッフの方の三線と歌のプレゼントもあり気付けばなんと2時間半が経過。大展望が望めた飯盛山と山小屋での素敵なホワイト Xmas となった

花嫁街道・烏場山 (忘年山行)

三田 博

山行日(天候) : 12月19日(晴れ) 20日(晴れ)
 参加者 : L松田宏也、山崎完治、小川和敏、吉永英明、三品京子、三田芳江、山口文嗣、三木雄三、國宗文、藤木玄三六、高橋琢子、SL三田博(12名)
 コースタイム : 花嫁街道登山口 10:30→駒返し 11:50→カヤ場 12:00→烏場山山頂 12:45→黒滝 14:00→はなその広場 14:15

和田浦の花嫁街道・烏場山は、年の瀬の一日、陽だまりの中をのんびり歩くにはもってこいの山だ。コロナで散々な目にあった1年だったが、それでも締めくくりの忘年山行には元気な顔ぶれが集まった。

花嫁行列が通ったにしては、歩き始めはいきなり急登。体が温まるころに、ようやく穏やかな尾根歩きになる。2019年の台風による塩害の後遺症なのだろうか、マテバシイの葉が枯れているのが目に付く。ゆるゆると1時間ほど常緑樹林の穏やかな登山道を歩くと、太平洋がよく見えるカヤの広場に到着。南向き斜面でベンチもいくつかあり、風も遮られて休むのにはちょうどいい。少し怪しげだが、一応トイレもある。ここでゆっくり昼飯にした。

第3展望台で、愛宕山や伊予ヶ岳など房総の山々、その



向こうの富士山を眺めた後、烏場山(265m)に到着した。狭い山頂で可愛らしい石像の花嫁「おふくさん」にみんなで挨拶したら、早々に下りの花婿コースへ。こちらはやはり男性的な?急坂が多い。祠がある金毘羅山の急な道を慎重に下りると、最後はしっかりした木造階段へ。谷底には落差10mほどの立派な黒滝があった。ゴールの「はなその広場」に到着して整理体操。日帰り参加者とはここで別れ、9名で宿泊先の内浦山県民の森へ向かう。

千葉支部の定宿「森の宿せせらぎ」では、名物の大きな金目鯛の煮付で忘年会を行う。元々リーズナブルな宿だが、今回はGoToキャンペーンのおかげで超格安である。他にお客さんたちも数組いるので、食堂での飲食は早々に切り上げ、続きは部屋での2次会へ。少しは山岳会らしく「今年登って良かった山、来年行きたい山」など一人ずつ話しているうちに、沢山あった日本酒・ワインもいつの間にかカラに。

翌日は、鶴原理想郷をぐるっと1周ハイキング。コース最奥の大杉神社には、安政の頃の鯨の頭骨が祀られていた。「来年は良い年になりますように」と手を合わせる。最後に勝浦の市街地に出て、辛〜い勝浦タンタンメンを食べ解散した。



八ヶ岳 (硫黄岳・赤岳)

藤木 玄三六

山行日(天候) : 12月26日(曇り) 27日(晴れ) 28日(雪のち曇り) 29日(晴れ)
 参加者 : 26日~27日 : L松田宏也、三田博、密本織絵、藤木玄三六、清水義浩(本部理事)
 : 28日~29日 : L松田宏也、藤木玄三六、清水義浩(本部理事)
 タイム : 27日/硫黄岳 : 鉱泉発 7:30→硫黄岳 10:20→鉱泉 12:30
 28日/赤岳 : 鉱泉発 8:00→行者小屋 8:50→地蔵の頭 11:25→赤岳 13:00→行者小屋 14:55→鉱泉 16:00

26日、12時に松田支部長が前泊している赤岳山荘に5名集合し、赤岳鉱泉に向かう。ノーアイゼンで雪道の歩行を慣らしながら、14時半に赤岳鉱泉に到着。鉱泉横の人工氷瀑ではクライマーたちがアイスクライミングを楽しんでいた。到着後は部屋で休憩。廊下側の窓からは大同心・小同心が間近によく見え、夕日に照らされ美しい。夕食は名物のステーキを食べ、21時に就寝。

翌日、朝7時半に硫黄岳に向け出発。風もなく快晴、積雪も少なく前日同様アイゼンも不要であった。雲もなく抜けるような青い空の中、八ヶ岳ブルーを楽しみながら進む。大きな難所もなく10時20分に硫黄岳山頂到着。山頂は強風に吹かれていて雪はほとんどない。三角点マニアの清水さんの案内で頂上から少し離れたところにある三角点

に行き、後ろを振り返ると富士山がくっきりと見えた。その後下山を開始し、12時半に赤岳鉱泉に到着。三田さん・密本さんは残念だが仕事の都合で下山のため、ここで二人を見送る。明日の天気は午前中は雪、昼近くなると次第に回復してくるという予報であった。



28日は早朝から雪が降り続いていた。天気予報を踏まえ当初予定より出発を30分遅ら

せ、8時に赤岳鉱泉を出発した。私のアイゼンワークの練習もあり出発時からアイゼンを装着し向かう。初めての12本爪アイゼンの歩行で2人の指導の元、アイゼンの感触を確かめながら進む。行者小屋から地藏尾根に取りつくがトレースがほとんどない。我々よりも先に出発したパーティ



は文三郎コースを通過して赤岳に向かったと推測した。地藏の頭までは急登、クサリ場の難所をピッケルを駆使しながら慎重に進む。ハシゴもあり、アイゼンの爪の間におくように慎重に登る。雪はまだ降り続いていたが、11時25分に地藏の頭到着。雪は治まる気配はない。高度が高くなる

に従い風も強くなり、小休止中は特に冷えを感じた。手足の指を動かしながら寒さで冷えが起きないように行動食をとる。山頂まではクサリ場の難所が多数あり、細心の注意を払いながら進む。風もさらに強くなり全身に凍てついた氷が降りかかってくる。目出し帽がとても役に立った。この天気では山頂でも景色が望めないと思ったが、山頂直下の所で、ほんの数分間、太陽が射し雲が切れた。するとそれまで白く覆われ何も見えなかった所に阿弥陀岳が顔を出した。私はこの厳冬期という季節でのこの高度感の中で、急に展望が開けた周囲の景色に衝撃を受け、しばし堪能した。ピーク間近で多少疲れが出ていたが、一気に疲れも吹っ飛び、山頂までの急登を登っていく。周囲は既に雲に覆われまた景色が見えなくなり、この日は以降も太陽がでることはなかったため、あの瞬間だけだったのだろう。13時に赤岳山頂到着。

この日は松田支部長の誕生日であり、私の冬山初挑戦の登頂と共に祝うことが



できた。祝福の握手を交わし記念撮影をした。下山は文三郎ルートで降りる。階段で急な斜面の難所が続き、バランスを崩しそうになる個所もあったが、ピッケルでうまくバランスを取る。アイゼン、ピッケルの動作も大分連動してきた。14時55分に行者小屋到着。ここでアイゼンを外し、16時に赤岳鉱泉に到着。硫黄岳・赤岳山行を無事終えた。今回冬の八ヶ岳山行を経験し、冬山の厳しさと素晴らしさを同時に味わい貴重な体験となった。

山の豆知識

ザレ場とガレ場の違いは？ (YAMA HACK コラム参照)

ザレ場；割合小さな岩屑や小石などがゴロゴロ散乱している斜面

ガレ場；岩壁や沢が崩壊して大小さまざまな岩や石がゴロゴロ散乱している斜面

ザレより石が大きく傾斜角が30度以上の急なものとも言われる



両者の差は、人によって判断基準が違うかもしれませんが、とにかく、足を取られやすく安定して通過するのが難しい場所です。滑ったり、浮石を踏んだり、思わぬ「ニヤリハット」に遭遇したことは誰にでもあるかと思います。

ザレ場；体幹をしっかりとする 足裏全体で地面をとらえる

ガレ場；とにかく浮石を踏まないこと 歩幅はやや狭くする

といった点が重要かと思われます。

まあ、全てのシーンで、焦らずに慎重に歩くことが肝心なことでしょう！

エッセイ・山

「そんな地図見たことがない」

黒田 正雄



おそらく、千葉支部のみなさんが見たことがないと思われる地図の話です。

一つ目は、大菩薩のさる峠でのこと、4、5人が1枚の地図を囲んでなにやら話し込んでいた。山歩きしている人間にとってはちょっと覗きこんでみたくなる場面であった。山で人が見るだろう地図は、国土地理院の地図か昭文社の山と高原地図でしょう。しかし、そうではなかったのです。その方々は揃いの作業衣を着て、登山用のザックは持っていない。わたしは腰をかがめて、仲間に加わることがとく覗き込む。それはかれらの業務用の地図で等高線が入っていない。しかし道は歩道の破線、水線、尾根筋を含めしっかりと記載されていた。区分らしき囲いの線と、その区分の番号が記載されている。はて、なんの地図かといふかった。打ち合わせが終わったとみえ、地図をたたみ、しまいかかった。そこでわたしから話しかけてみた。「その地図は見たことがないですが、なんの地図ですか」と。かれらは言いよどんでいたが、「水道局の業務用の地図です」と教えてくれた。

奥多摩の小河内ダム（奥多摩湖）周辺は都の水源林が広がっている。その水源林の保安道もまた一般登山道として利用されている。そこで、自分は奥多摩が好きで地元山岳会にも入り、もう何十年も奥多摩を歩いています。その仕事用の水源林道（という歩道）の記載された地図を譲っていただけませんか。それを使えればとても勉強になるし、また歩く楽しみも増えると思いますから・・・と頼み込んだ。あとはひたすら押しの手。水道局の方は根負けしたのでしょう。譲ってくれました。この地図はわたしのお宝地図の一つです。局外不出の、水源林巡視のための業務用地図ですから。もちろん活用していますよ。

今一つは、わたし自身はよく知っているけれど、おそらくみなさんは知らないだろう、という地図。謎なぞではないですが、地図には等高線が記載されているけれど、地名と標高値（文字と数値）は記載されていない、というもの。・・・オリエンテーリング競技用の地図です。オリエンテーリングは地図とプレート・コンパスを使った地図読

みと、走るスピードが結果に繋がるという頭脳と体力で競うものです。競技用地図には、巡回するポイントが①→②→③・・・と表示され、その順に追って走ります。あと普通の地図と異なる表示は、走行度の難易が色彩で表示されていることです。大きな木の茂る樹林帯でも手入れが良く、下生えもなく走行が快適にできれば、そこは白地となります。逆に下生えやヤブがはびこっていれば濃い緑で彩色されています。色の濃淡がその度合いを示しています。急がば回れ、で行くか、ヤブを強行突破するかは、その人の好み、実力により異なります。実力はオリエンテーリングの経験と実績が培ってくれます。

オリエンテーリングも最近では、電子装置も進化し、競技者の指にはめる電子装置（競技者固有の番号が記録されている）、各通過すべきポイントに置かれた受けの記録装置（競技者はそこをタッチする）、競技後回収されたこれらの記録装置の数値は読み取られ、その分析結果は競技終了後公表されます。各競技者の各区間のタイムが判ります。自分がへまをした区間を、かれはいいタイムで通過している、などが判ります。自分が他者に比べなにか弱く、不足しているかを知ることができます。またオリエンテーリングの競技会記録として保存され、大会参加者以外でも見ることができます。など競技の面白みが、参加者の単なる勝敗結果だけでなく、区間毎のタイム、競技者の技能と作戦がどのように発揮されたかが分析できるようになり、競技の面白みが幅広く増してきています。また、クラブ毎にユニホームがあります。色彩と模様がユニークで、遠くからでも、「あ！〇〇クラブの選手だ」となります。しかし、知らない人が見たら、あの人たちなにやっているんだろうね、となります。登山をやっている方に向いた競技かと思っているのですが、意外と同好者は居ませんね。わたし自身は72歳くらいまで競技クラブ（地域名などを付けいくつもある）に入り、技術の向上とトレーニングに努め、競技会（男女、年代別）に参加していましたが、頭脳、目、脚力の衰えを自覚し、引退しました。いままってOBお楽しみ競技会の開催案内などを頂いております。（了）

地図といえば、千葉県の生んだ偉人・伊能忠敬

伊能忠敬記念館は、佐原、今の香取市に在ります。江戸時代を彷彿とさせる街並みとともに行かれた方も多いたと思われま。出生地は九十九里、横芝光町で青年時代を過ごしました。若くして酒造業を営む伊能家当主となり、地元のためにも活躍しました。当時50歳にして江戸に出て71歳になるまでに全国の測量を行い、ほぼ日本の基本図となる地図を完成し、ヨーロッパなどで高い評価を受けました。平均寿命50歳ほどと思われる当時、50歳を過ぎてから地上の距離と星の高度で日本全国を測量するという壮挙に、今更ながら驚かされます。山に登るには、最低程度の地図読みができないと伊能先生に申し訳ない感じです。

山岳古道調査プロジェクトについて

山口 文嗣

昨年の会報「山」10月号に案内された通り、日本山岳会では創立120周年記念事業として4月より「日本の山岳古道120選」の調査を全国的に行うこととなりました。

全国の支部や本部の委員会・同好会、個人会員から3月中に候補を推薦してもらい、本部の山岳古道調査プロジェクトチームで選定し、調査を行います。選定された古道の調査には誰でも参加できますが、地理的条件、マンパワーなどから、推薦した支部・会が中心となって進めていくことになります。

推薦の条件としては、まずは山岳古道(旧道・廃道)、もしくは山に関わる道であること。経済(塩、食料、肥料、燃料、鉱山等)、信仰、軍事、政治、交通路(街道、裏街道)などで利用されていた古道。ストーリー性(文学、伝説、史実、詩歌等)がある古道。遺跡や石碑などが残る古道。できれば、現在は脚光を浴びることなく、整備されておらず、忘

れ去られようとしている古道を主な対象とする、ということです。千葉支部としても県内の古道数ヶ所を推薦し、支部を挙げて調査を推進していくつもりでいます。千葉支部からの候補として既に、鹿野山道、花嫁街道、久留里街道等十数ヶ所を検討中です。締切まで時間的な制約はありますが、ここはどうかという候補があれば会員・会友の皆様からも是非推薦して下さい。今後の調査の参考にさせていただきます。

この度松田支部長の命で、千葉支部からの推薦候補選定、調査実行の担当を任されることになりました。「房総半島分水嶺踏査」、「房総半島郡界尾根踏査」に引き続き大役を任されることになりました。2025年の発表までかかる大きなプロジェクトですので、会員・会友の皆様のご協力を賜り、何とか成し遂げたいと思っておりますので、よろしく願います。

3月現在のところ、千葉支部の山岳古道は、鹿野山道、花嫁街道、久留里街道などが候補となっています。4月には、全容がはっきりすると思われま。山口プロジェクトリーダーへのご協力をよろしくお願いします。

白狐峠から嵯峨山へ

小川 和敏

※個人山行

山行日(天候):2月20日(晴れ、但し強風)

参加者:L三田博、竹内進、三田芳江、三品京子、宮崎美智代、小川和敏

タイム:白狐川の滝見橋発9:40→白狐峠10:00→郡界尾根10:15→嵯峨山11:45→嵯峨山登山口12:15~12:45→滝見橋13:40

藪の臺のシーズンということもあり、鋸山の近くの白狐峠へ行くことに。いつもの沢遡行の時よりゆっくりと君津PAに集合し、富津竹岡インターから白狐川を目指す。天気もまあまあ感じで、林道をゆっくり進むと、以前岩登りの基礎訓練をした白狐峠に30分弱で到着。さてと…藪の臺を探しながら郡界尾根の方へ進むも…全く気配なし!

仕方がないので、気を取り直して郡界尾根に行くことに。房総の山特有の細い尾根筋を強風と闘いながら進みます。まあまあアップダウンがあるが、郡界尾根の中では歩き

やすい方だと言われる。いくつかの小ピークを経て嵯峨山へ到着。何だか山という感じがしないが、一応、記念写真を撮ります。その後、林道へ下りようとするも、ルートがあまりはっきりせず一時的に停滞します。意を決して、踏み跡の薄いところをゆっくり辿ると、やがて民家の屋根が見えてきて庭先へと。恐縮しつつ進むが、すっかり廃屋のあり

様で、夏ミカンと白い梅の花だけが迎えてくれました。折角なので、梅の花見がてら三田リーダーお手製の味噌汁を戴きながら少し遅い昼食です。

この先、やや長い林道歩きが待っています。その東奥野林道ですが、一昨年の台風被害のひどいこと。今まで見た千葉県各所の中でも最悪に近い感じ

でした。最後まで、キョロキョロと藪の臺を探しましたが、やはり一つも見当たらず。来年のリベンジとなりました。



高岩山

塩塚 生二

※個人山行

山行日(天候) : 2月23日(快晴)

参加者 : L 山田紀夫、吉永英明、小川和敏、塩塚生二

タイム : 千葉駅西口 8:00 登山口 9:00→八郎塚分岐
10:00→頂上 11:00→高岩観音寺で食事 11:30→
八郎塚分岐 13:00→登山口 14:00 千葉駅西口 15:00

千葉駅西口に集合。車で高岩山登山口まで約1時間、途中車窓から頼朝桜が道路、山道に8割方咲き誇っている様子でとても奇麗。

田園風景を眺めながら登山口へ向かい、初めに石の階段を登り少し険しい登山道を歩く。道は整備されているが、台風での被害で山林の巨木(杉)があちこちに倒れていた。

高岩山は、岩ばかりの山で、植物たちは地下に深く根を張ることが出来ず横に根を張っているので、強風に弱く大きい台風が来れば耐え切れず倒れる巨木が見られた。八郎塚分岐にも巨木が倒れていた。樹齢何年かわかりませんが約100年位の巨木。

頂上に向かい石の道を歩き、擬木の階段を登る。頂上では、360度の絶景を眺めて素晴らしいひと時でした。

山の洞窟を通りすぎ、高岩観音で食事(炊飯・コーヒー)。満腹状態で登山口へ戻ります。千葉駅西口で解散。

高岩山には、初めて登りました。山道や階段など整備されていて、メンテナンスされる方が4、5人いるそうです。初心者には登り易い山と感じました。



自然学クラブ巡検

三木 雄三



丹沢は「海底噴火」の賜物

12月12日(土)、小田急線の渋沢駅に集合後、表丹沢登山口の大倉へバスで移動。今回の巡検は「緑色凝灰岩」の見学が目的。丹沢の緑色凝灰岩は1200年前の海底噴火で火山灰が固まったもので、それがフィリピン海プレートで運ばれ、600万年前に関東山地に衝突。さらに100万年前の伊豆の衝突で押し付けられ複雑な地形の山塊が出来た。「丹沢」の丹は谷、沢は流れを指す古い言葉だ。

「丹沢の緑色凝灰岩には磁気を帯びているものがある。さあ探しましょう」。山岡さんの言葉に参加者はわくわくどきどき。鍋割山を源流とする四十八瀬川に沿い西山林道を進むと、やがて足元に緑色の石が見えてきた。巡検七つ道具の糸で縛ったマグネット玉を石に近づけた瞬間、ピタンと吸い付いた。「あった！見つけた…」と大興奮。河原では山岡さんが石の説明をしてくれた=写真=。

源流部とはとても思えない幅広い河原は関東大震災の激しい揺れで山が崩壊して出来た地形だということも学んだ。その険しい崩壊地からロープの張られた急坂を登り、栗ノ木洞、櫟木へと西丹沢との境の尾根をハイキング。「はやく歩かないと飲めないぞ」と吉永さんの檄を受

け、楽しく元気に歩いた。それにしても「なぜ磁気を帯びたのか」は不思議。次回の巡検課題となりそうだ。

参加者 : 新井好夫、稲川由妃、鎌谷繁、香高真奈美、坂上貞子、塩塚生二、高橋琢子、竹園清隆、廣村恵美子、山岡磨由子、山口文嗣、吉永英明、能美勝博、L 三木雄三



恐怖のトビ岩

三品 京子

※個人山行

山行日(天候) : 2月23日(晴れ)
参加者 : L 三田博、竹内進、宮崎美智代、三品京子
タイム : 梨沢橋道端駐車(8:30) → 物見塚山(9:40) → トビ岩(11:20) → 牧場跡→ 駐車場所(12:30)

前回沢登りで訪れた梨沢地区に今回は尾根歩きに訪れた。民家のわき道を入り林道から物見塚登山口の尾根道に進む。道は分かりづらく尾根の分岐の度、地図確認・GPSで方向を確認しながら1時間、物見塚山(227m)に到着。

地図には山の名前は無く標高のみの記載、だが山頂には立派な石碑が建立されていた。

ここからトビ岩を目指し北上、急な登り下りの連続、10mもない高低差だが急斜面は、砂地で木々も少なく足場を探しながら歩く、途中の分岐尾根から前方の森の中に岩が露出したトビ岩の山頂が見えた、断崖を越えトビ岩の直下にたどり着く。

見上げる岩は垂直に近い、正面突破を試みるも途中で危険と判断し戻るも迂回路は一昨年の台風で崩れている、左側からルートを探し回り込み登れる場所を探す。

倒木を避けながら岩に取りつきホールドの場所を探りながら登ると山頂近くの尾根に出た、晴天の山頂からは歩いてきた道筋が見て取れる。

下山は牧場跡を抜けて戻る、地図読みの大切さを痛感した山行となった。



房総の沢

三田 博

※個人山行

清和・小糸川溪谷 12月6日(日) 晴れ時々曇り
◇参加者 L 三田博、小川和敏、竹内進、三田芳江、三品京子、宮崎美智代
◇タイム 清和県民の森第一P9:00→ロマンの森・小糸川溪谷→第一P12:45→昼食後ロープワーク・懸垂下降の練習 13:30~15:00

沢登りは今回が初めての参加。濡れる事が前提なので持ち物の準備にいつもより手間取った。清和県民の森第1駐車場に9時集合。沢装備をして入渓点まで30分ほど道路を歩いた。途中これから歩く予定の沢を橋の上から覗く事ができた。深い溪谷だった。入渓点は登山口のようにはっきりとした看板はなく分かりづらかった。前日は冷たい雨が降っていたが当日は12月にしては晴れて暖かかった。準備体操をして、いよいよ沢歩き開始。いくら暖かくとも冬の冷たい水に濡れるのには抵抗があり暫くは水を避けながら歩いたが、何度か渡渉を繰り返すうちにじわじわと水が沢靴に染みてきた。時折去年の台風の影響か流木で行く先を阻まれた。渡渉の際も光の反射や落ち葉で水深が分かりづらく、気が抜けなかった。一ヶ所、リーダーのロープ補助なしではクリア出来ない箇所もあった。

昼食は三島湖に移動し、リーダーの温かいうどんを美味しく頂いた。その後、ロープワークと懸垂下降の練習をして充実した一日が無事終了した。皆様、お世話になりました。(宮崎)

→尾崎入渓地点 13:30
コロナ緊急事態宣言が延長されたが、家に閉じこもってばかりではストレスが溜まるばかり。沢なら人に会うこともあるまいと、いつものメンバーを誘い、三郡山から流れ



小糸川源流(右俣) 2月11日(木) 晴れ
◇参加者 : L 三田博、三品京子、小川和敏、竹内進、宮崎美智代
◇タイム : 尾崎入渓 9:30→横尾林道 11:30→三郡山 12:10



落ちる小糸川の最源流部に行く。2 か月前と同じ清和県民の森駐車場に集合、尾崎（おざい）の農場の動物除けの柵を回り込んで小糸川に入る。小糸川渓谷はゴミがあったりしたが、今回は上流なので水がきれいだった。深いゴルジュの中を舗装道路のようなナメが延々と続く。滝が無いので安全だが、ナメとゴーロの繰り返しで些か歩きが単調になってくる。二俣が数か所出てきたが地図とGPSでしっかり確認しながら歩いたので、最後は四つん這いになりながらも、



狙い通り横尾林道の三郡山入口へ詰め上げることができた。展望の無い三郡山の頂上を踏み、高宕山まで続く尾根を北上する。痩せ尾根は、一昨年台風でところどころ崩れている。踏み跡は一応あるのだが、バリエーションのようだ。尾崎方面分岐で北東へ向きを変え急な支尾根をどんどん下ると、今朝入渓した地点（小糸川）に戻ることもできた。（三田）



湊川志組川 2月13日（土）晴れ

◇参加者：L三田博、小川和敏、三品京子、宮崎美智代、竹内進

◇タイム：志組林道脇駐車場9:20→2mの滝11:15→三俣11:35→支尾根取付き11:45→高宕山12:45→志組林道終点13:50→駐車場14:20

風弱く穏やかで暖かい日和となる。沢支度をして入渓。冬の渇水期のうえにここ暫く降雨無く、水量少なめ。足首程度の水深で冷たさをあまり感じず快調。志組川は湊川の支流になるが、小糸川の支流のような両岸が切り立った威圧感のある深い廊下状ではなく、川幅が広めで、片岸が切り立っていても反対岸は緩くなっている箇所が多く、開けた明るい感じで気持ちが良い。シカの白骨、温泉成分が染

み出して白くなった川床などを見ながら、日の射す緩やかに続く滑床を進む。2時間ほどで落差2mの滝が現れる。左岸の溝状をルートにとる。傾斜はそれほど急では無いが、滑状でしっかりつかめるホールドが無い。先頭の三田リーダーが溜まっていた落葉を掻き落とした箇所には沢靴のフェルト底を効かせて登る。暫く進み、源流部の三俣の一番左の沢に入る。倒木が沢をふさいでいる箇所が多くなり、右岸の支尾根に移る。尾根を高宕山に向かうと沢の上部は一昨年秋の連続台風で崩壊し、崖になっている箇所が多く、ルート判断の正しさを実感する。雨乞いの神が祀られ、日照りの時には山頂のお釜の水を自分の田に運ぶ風習があるという高宕山を往復し、志組林道に下る。（竹内）



突然ですが、ここは何処でしょう？ ヒント；海外です。

????.....????

およそ10年前の姿です。 → 答えは次の頁に！



あ の 日 の 山

ギリシアの山旅 —オリュンポス山、パルナッソス山—

篠崎 仁

日本山岳会千葉支部の会合でのこと、私がギリシア哲学をライフワークとしていることを知った小疇尚先生から「オリュンポス山に登ろう」との提案があった。神々が住まうというギリシアの最高峰オリュンポス山登頂は大変魅力的であった。海外登山のエキスパートである坂上光恵さんからもぜひと声がかかる。登山情報は少なく、日本山岳会会報「山」の索引を40年分調べたが登頂記録は見当たらなかった。アトラストレックにギリシアの伝手があることを知りオリュンポス山、パルナッソス山をメインに現地の手配を頼む。それぞれの知己に声をかけ8人のメンバーが集まった。地理地形学、ギリシア哲学、フランス文学、英語、数学の教授・先生たちで構成されあたくも学術調査隊の如くであった。

・オリュンポス山 <標高2,917m。ギリシア神話の大神ゼウスをはじめオリュンポス十二神の住まいとされる。ミティカス、ステファニ、スコリオの三つのピークを持つ。

日本では、英語読みのオリンパスになじみがある。オリンピックの語もこれが起源。>

まずはギリシア北東部のテサロニケ空港に降り立つ。新約聖書テサロニケ書でも知られるギリシア第二の都市である。ここから車で登山口ゴルトシア(1,120m)へ。美しいブナ林を歩き森林限界を越えると突然視界が開け、岩峰迫るミューズの大地に出る。振り返るとエーゲ海が。「ゼウスの玉座」ステファニが圧倒的な迫力で眼前に屹立している。玉座のゼウスを囲む神々の姿が脳裏に浮かぶ。ミティカス麓の山小屋に泊まる。2012年8月23日、スコリオの頂上に立ち一気に下る。途中で石造の清潔な小屋に一泊し、リトホロに向かう。

・パルナッソス山 <標高2,457m。アポロンの神託所デルポイが南麓にある。パリのモンパルナスもこの山にちなんで命名、またフランスの作曲家F. ケープランのトリオ・ソナタ「ル・パルナッソス」、「リュリ讃」ではパルナッソスに登り、アポローン、ミューズたちに会う場面が描



写されている。>

この山はヨーロッパでも有数のスキージョイント地であることから、車が2,100m地点まで入るのでハイキング気分で山頂まで登れる。デルポイの神託所はギリシア史、文学の重要な決断の場面で登場する有名な場所である。

古代ギリシアは、思想・哲学、文学、美術、言語等々西欧のあらゆる文化、学問の源泉とされている。今回のオリュンポス、パルナッソス登山は、小疇先生に地理地形のレクチャーを受けながら山に登り、そして北端のテサロニケから南端のスニオン岬までギリシア哲学の泰斗である教授の解説を聞きながら2,000年以上前の文化・芸術に触れることができた得がたい山旅であった。



スニオン岬 ポセイドン宮殿跡にて

正解は、ギリシャのオリュンポス山、ステファニ峰でした。
かなりの難問でしたネ！

千葉支部初代支部長・篠崎仁さんの印象に残る山でした。

♪ こんにちは ♪



野口 徹

出生は東京、本郷です。

やがて父の転勤とともに神戸へ。ここで4～5歳頃初めて山に登っています。記憶は殆どありませんが、六甲です。ほどなく、現在住んでいる都下狛江というところへ住居を移し、ウスバシロチョウを追いかけて裏高尾、奥高尾のヤブや谷へ。中学に入ると八ヶ岳、丹沢、奥秩父などへ山そのものを目的で入るようになりました。高校時代はワンダーフォーゲル部で2学年次にリーダーを経験しました。部の山行以外での個人山行として後立山縦走(夏)、甲斐駒千丈(秋)丹沢の沢(冬季以外)など、そのため学校をサボることを余儀なくされた?こともありました。

大学時代はワンゲル系の同好会(岳友会、確か海外遠征を目指していました)に入りました。しかし、当時楽器をやっていた関係で冬山、RCでの“凍傷、滑落”、更に当時は当たり前であった“シゴキ”を恐れて全く根性なく早々に退部しました。その後、忸怩たる思いを引きずりつつも結婚後、家族に心配をかけず登山をということで、ファミリー登山を展開。夏の南ア、北アなどを含めながら年に4～5回ほど。特にムスメとは彼女が最近結婚するまで、私が“一人で行っては行けません”ということで、山に付き合ってもらっていました。

その間、同業者支部ハイキング部の会長を10年弱、現在は遭難役・・・違いますね、相談役です。最近では、登っては山小屋食事付、下りては温泉という大名旅行の癖がつき、登山暦を終えそうです。かくして、内容はともあれ、小学校時代から現在に至るまで、山との関わりは、どうか続いております。

印象に残る山

1. 大学時代の個人山行：薬師～笠縦走。装備が重くバテました。確か当時も禁止されていたはずの杓子平での幕営・・・反省しています。しかし素晴らしい思い出です。
2. 薬師、黒部五郎、鷲羽、雲ノ平への家族テント山行。駒千、塩見、荒川明石などの子ども受験期前の家族山行。
3. 十勝幌尻、夕張岳、富良野岳などの最後の家族全員山行。
4. カムエク。八ノ沢カールでのヒグマ遭遇(足下に福大生遭難のプレートあり)、霧中のピークは展望なく、札内川増水で走るように早々に退散。下山報告が少し遅れたため地元の関係者に叱られました。
5. 高校時代：丹沢水無川流域、夏休みに幕営ベースにて集

中遡行、及び下降。そして藪こぎ。

6. 餓鬼岳、剣ズリ。唐沢岳ピストン。なんとと言っても唐沢岳の頂上直下踏み跡と足下のコマクサ群落。なんでこんなところにルートがという思いでした。餓鬼岳頂上、ワインで昼から乾杯。そして餓鬼岳山荘からの何とも可愛らしい見下ろし打ち上げ花火俯瞰。極上の小屋泊まりデラックス登山。
7. 八ヶ岳立場川本谷での高巻きルート誤り。こんなところであわや遭難。そして巻機、快晴の米子沢の快適スラブ遡行。
8. 白神田代岳と世界遺産になる前の白神岳。和賀岳：ブッシュの中からガサガサ “ヤブからマタギ” 「おっさん勘弁してよお」熊か猪か。
9. 中途敗退の山：残雪期の暑寒別岳(雨竜沼湿原ルート)、厳冬期北八ヶ岳、その他。

以上、ほぼマイルドな山行を目指してやってきました。

一生のうち遭うことのできる人々に限りがあるように、山々にも同様、限りがあるものと考えております。これからは自身が進んで登らせてもらった山々を些かでも、もう一度訪れ、そして挨拶ができることを楽しみにしております。



中央です

ウォーキングクラブとは

3年ほど前に、前任の三木支部長から私杉本が歩こう会に入ってあちこち歩き廻っている経験を生かして、千葉支部でウォーキングの企画を考えろと言われ、どうせやるなら千葉支部設立時からの大イベントである房総半島分水嶺踏査にちなんで、東京湾に流れる花見川から利根川を經由して太平洋に流れる印旛沼まで歩こうと企画したのがウォーキングクラブの前身です。実施してみると、皆さん若い時から登山で鍛えており、私の知っている60歳過ぎてからウォーキングを始めたような方とは同年代で比べものにならないほど元気で企画のし甲斐がありました。その後松田支部長が同好会活動の活性化を打ち出したのをきっかけに正式に同好会として発足し、希望者は同好会に登録してもらいほぼ月一回のペースでウォーキングクラブ情報を登録者に発行し月1・2回のウォーキングを実施しています。(杉本 正夫)

ウォーキングクラブ活動報告 (11月～1月)

- ① 11月8日(日)9:30～14:30 成田空港・新勝寺③ 天候 曇後小雨
 コース：芝山千代田駅ー航空科学博物館(WC)ーひこうきの丘ーさくらの丘(WC)ー三里塚記念公園ー根木名川ー栗山公園(WC)ー成田駅(解散)
 参加者：柳川、鎌谷、宇津木、塩塚、高橋琢、新井、高橋正、香高、節田、杉本、10名
 - ② 11月22日(日)9:30～14:00 手賀沼ほぼ一周 天候 曇
 コース：我孫子駅ー手賀沼公園(WC)ー水の館(WC)ー曙橋ー道の駅しょうなん(WC)ー北千葉導水ビジターセンター(WC)ー北柏ふるさと公園(WC)ー北柏駅(解散)
 参加者：塩塚、湯下、杉本、3名
 - ③ 12月7日(月)9:30～14:00 手賀川を歩く 天候 晴
 コース：湖北駅ー湖北中央公園ー低地集水路ー手賀川ー手賀沼終末処理場ー下手賀川合流点ー六軒川ー利根川ー栄橋ー布佐駅(解散)
 参加者：高橋正、香高、高橋琢、岩尾、国宗、小林、吉田、杉本、8名
 - ④ 12月21日(月)9:30～14:00 真間川を歩く 中止
 - ⑤ 1月17日(日)9:30～13:30 花見川・ポートタワー 中止
 - ⑥ 1月23日(土)9:30～14:30 谷津干潟・茜浜・花見川 中止
- (杉本 正夫)



千葉県のお蕎麦屋さん

「山と蕎麦は付きもの」だと思っている人は多いように思えます。

千葉県のおすすめなお蕎麦屋さんを独断と偏見で紹介します。蕎麦に限らず、食べ物の嗜好はまさに人それぞれであることはよくお分かりかと。従って、以下のお蕎麦屋さんが好みに合わない可能性もありますのでご承知おきください。

- ・ 市川市国府台の「いさと」
 じゅん菜池公園の近くに在ります。自宅開放型のお蕎麦屋さんです。蕎麦の実・挽き方にこだわりが有ります。つゆのかえしもこだわっていて黒糖を使い1年以上寝かせて作ります。鴨味噌を包んだ玉子焼きも名物です。
- ・ 養老溪谷の「ゆい」
 古民家再生のお蕎麦屋さんです。自家栽培の無農薬野菜ほか近隣農家さんの地元野菜、山菜を使用。現在は完全予約制。小学生以下、5名以上不可です。店内一画にギャラリー空間在り。
- ・ 稲毛の「利兵衛」
 JR稲毛駅と京成稲毛駅の中間に位置します。店内は民芸調です。お蕎麦もなかなかのものですが、冬場は特に鴨鍋が有名です。珍しいダツタン蕎麦も有ります。

今現在は、コロナの関係もあり、営業については必ず事前に問い合わせをして下さい。

(小川 和敏)

支部山行の予定

● 山行の心得 リーダーは、ガイドや添乗員ではありません。

連れて行ってもらうではなく、自主的な意識を持ち参加してください。

リーダーが参加者にそれぞれ役割を振り分けますので、積極的に引き受けてください。参加する前に、山域、コース、交通機関などは地図やガイドブック、ネットなどで十分下調べして下さい。地図・コンパス・筆記用具は、どんな山行でも必ず持って来て下さい。また、山行に見合った登山保険には必ず入って来て下さい。遭難救助付きの保険加入は任意ではなく、すべての登山者の義務です。体調不良者が出れば事故と同じで、山行は中止になり引き返すこととなります。日頃の自主トレーニングも行うようにして下さい。

リーダーの連絡先	
杉本正夫	支部だよりを参照
松田宏也	支部だよりを参照
三木雄三	支部だよりを参照
三田 博	支部だよりを参照
山口文嗣	支部だよりを参照
山田紀夫	支部だよりを参照
小川和敏	支部だよりを参照
三品京子	支部だよりを参照
山本哲夫	支部だよりを参照

難易度

W ウォーキング

A 整備され歩行2～3時間

B 歩行5時間前後

C 歩行7時間前後、一部岩あり体力要

D 強い体力、岩技術要

E 高い適応能力要、危険度大

(難易度はJAC日本300名山を参考。岩・沢及び積雪期は難易度アップとする。)

個人山行も計画書提出を ; [送信先 chiba_jac@yahoo.co.jp](mailto:chiba_jac@yahoo.co.jp) #を@に替えて

山 行 の 予 定 (4月～8月)

日程	山 名	難度	備 考	リーダー	締切
4月3日(土)	大堀川を歩く	W	大堀川の桜を見られるかな?	杉本	3月27日(土)
4月3日(土)～4日	沼津アルプスと愛鷹山	B	桜と海と富士山	松田	3月10日(水)
4月3日(土)～4日	登山教室指導者養成講習会				
4月10日(土)	房総・鋸山	A	《自然学》海底から現れた山	三木	4月5日(月)
4月10日(土)	秩父・蓑山	A	桜の名所・美の山公園	小川	4月3日(土)
4月17日(土)～18日	4支部懇談会		群馬支部主催		中止
4月17日(土)～18日	長者ヶ岳・毛無山	B	田貫湖周辺の山、フジザクラ見頃	松田	3月21日(日)
4月17日(土)～18日	道志・西棚ノ沢	C	沢登り入門。翌日は松田組と合流	三田	3月21日(日)
4月23日(金)～25日	会津駒と窓明山	D	残雪たっぷりでワカンが必要。民宿2泊	三田	3月10日(水)
4月24日(土)	青葉の森公園	W	八重桜が見事	杉本	4月17日(土)
4月29日(木)～1日	尾瀬至仏山	D	残雪の尾瀬	松田	3月31日(水)
4月30日(金)～3日	涸沢・北穂高	E	テント泊 雪山	山本	4月10日(土)
5月1日(土)	国分川を歩く	W	こいのぼりが見られるか?	杉本	4月24日(土)
5月4日(火)	三浦富士と武山	A	武山のツツジが見頃	松田	4月25日(日)
5月8日(土)	支部総会				
5月16日(日)～17日	袈裟丸山と日光の山	B	アカヤシオと新緑の山	松田	4月18日(日)

日本山岳会千葉支部

日程	山名	難度	備考	リーダー	締切
5月21日(金)	権現道と御成り街道	W	両者の繋がりを探る	杉本	5月15日(土)
5月22日(土)	岩殿山と猿橋溶岩	A	昨年中止した自然学・地層巡検	三木	5月12日(水)
5月28日(金)～29日	伊豆・天城山	B	シャクナゲ時期にマイカー利用	小川	5月7日(金)
6月4日(金)～6日	御蔵島	B	島山旅シリーズ・長滝山～御山へ	山田	4月15日(木)
6月5日(土)	東金成東食虫植物群落	W	《自然学》伊藤左千夫旧宅も見学	三木	6月1日(火)
6月5日(土)～6日	釈迦ヶ岳・節刀ヶ岳	B	山梨百名山、芦川スズラン見頃か？	松田	5月5日(水)
6月12日(土)	真間川を歩く	W	国府台から東京湾へ	杉本	6月5日(土)
6月19日(土)	六ツ石山	B	奥多摩三大急登をゆっくりと	小川	6月10日(木)
6月19日(土)	JAC 総会 (オンライン)				
6月26日(土)	谷津干潟・茜浜・花見川	W	10/19 雨天中断のリベンジ	杉本	6月19日(土)
6月27日(日)～28日	鬼怒沼	B	湿原の花見山行	松田	5月30日(日)
7月3日(土)～4日	奥秩父・ナメラ沢	D	沢登り・前泊します	三田	5月22日(土)
7月10日(土)	大岳山	C	奥多摩駅から鋸尾根経由	小川	6月30日(水)
7月10日(土)	足和田山と富士山樹海	B	《自然学》溶岩が作った樹海	三木	7月3日(土)
7月10日(土)～11日	会津磐梯山	B	「宝の山」会津の名峰	松田	6月10日(木)
7月16日(金)～17日	奥秩父・東沢釜ノ沢	D	沢登り・沢中泊、日程調整あり	三田	6月17日(木)
7月24日(土)～26日	針ノ木岳・蓮華岳	C	大雪溪とコマクサ	松田	6月24日(木)
7月31日(土)～8日	赤石、聖岳周辺	C	南ア南部を歩く。日程は別途相談	松田	6月30日(水)
8月7日(土)	富士山5合目	A	《自然学》地形と植生観察	三木	7月31日(土)
8月13日(金)～17日	室堂から薬師・折立	C	山小屋3泊程度	三田	7月1日(木)
8月20日(金)～21日	御座山と荒船山	C	クルマで移動 各山をピストン	小川	7月20日(火)

● 山行の申込み

申込みは、原則として電子メールで行ってください。その際には下記事項の記入をお願いします。
また、山岳保険には必ず加入してきてください。

- ① 氏名②生年月日・年齢③住所、自宅電話番号、携帯電話番号④緊急連絡先氏名（続柄）、緊急連絡先電話番号

※年齢は山行日の年齢です。計画書と違うと保険が効かない可能性もあります。

山行によって、定員を設けています。技術・体力不足、初参加で力量不明の場合はお断りすることがあります。

コロナ対策 : 密集を避け、山小屋や休憩所などではマスク着用や消毒など決められた

ルールに従うようにしましょう。

お知らせ

《事務局より》

●2021年度支部総会のおしらせ

2021年度の通常総会を下記により開催いたします。この総会において2020年度事業及び決算報告、2021年度事業及び収支予算計画など審議する予定です。

日時 2021年5月8日(土) 午前9:15～

場所 千葉市文化センター 9F会議室

〒260-0013 千葉市中央区中央2丁目5番1号 TEL: 043-224-8211

総会 9:30～10:30

記念講演 10:40～11:50 「コロナ時代の登山」 柏澄子さん(山岳ライター、JAC理事)

柏 澄子(かしわ・すみこ)さんのプロフィール

1967年、千葉県千葉市生まれ。小学3年のとき、千葉山岳会や房総の山を歩く会の方々に手を引かれて富士山に登ったのが、初登山。中学1年のとき、『処女峰アンナプルナ』を読み、ヒマラヤはあの雲より高いのだろうか空を眺めていた。千葉県立千葉女子高山岳部に入り登山を始める。

登山全般および山岳地域のあれこれをテーマにしたライター。とくに登山家やクライマー、ガイドのインタビュー、山岳医療、野外救急、登山医学、チベット文化圏について熱心に書いてきた。

(公社)日本山岳ガイド協会認定登山ガイドⅡとして、ガイド業にも就く。2019年より日本山岳会理事、前「山」編集人。



写真=黒田誠

●役員会報告

2020年12月、2021年1月、2月は新型コロナ対応により役員会を中止しました。



編集後記；

編集3回目です。基本的に前号の体裁を踏襲しています。今後、皆さまのご意見を戴きながら、より良い「支部だより」にしていきたいと考えています。宜しくお願いいたします。

この自粛期間の中で、じっくりと庭いじりをしました。今まで気にもしなかった蔦の蔓をいくつも発見。早速、天ぷらにして美味しく頂きました。去年までもったいないことをしたと大なる反省でした。

津田沼のヨシキスポーツさんには役員会会場の提供ほか、千葉支部として大変お世話になっています。山用品を購入するときは是非ご利用して頂きたいと思います。会員になると割引があります。(小川和敏)



三陽メディア株式会社